

# 新潟医科大学長を務めた

とみなが

ちゅうじ

## 富永忠司 (1879-1945)

### 江戸時代以来の名家に生まれる

1879年（明治12）富永忠司は、美守村神田（現・三和区神田）の富永仙八の次男として生まれました。富永家は代々眼科医であり、かつ和歌や漢詩・紀行などの文学に優れた業績を残した家としても知られています。また忠司の兄孝太郎は、産業組合や上越病院の設立を行い、上越の産業の近代化に貢献しています。

### 医師をめざして

その後忠司は、東京帝国大学医科、さらに同大学院を卒業しました。卒業後、1909年（明治42）に当時日本の占領下にあった朝鮮にわたり、朝鮮総督府医院に勤め、1913年（大正2）にはドイツ留学を果たしています。その後は、新潟県に戻り、1917年には（大正6）新潟医学専門学校教授に、さらに新潟医科大学教授に就任しました（いずれも新潟大学医学部の前身）。

糖尿病の研究などに業績があり、厳格な努力家であると同時に温情家だったとされ、周囲の人々や学生たちに尊敬されていました。

### 新潟医科大学長から開業医へ

1922年（大正11）には再びドイツへ留学。1931年（昭和6）には第三代新潟医科大学長を務め、名誉教授になります。大学に勤めた期間は数多くの後進の指導に努めました。1936年7月の退職まで5年あまりの在任でした。退職の理由は、新潟市白山浦1丁目に内科医院を開業するためでした。開業した内科医院にも、その尊敬される人柄から多くの患者が訪れたと言われます。また新潟医科大学は戦後、新潟大学医学部の発足母体となりました。

1945年（昭和20）6月14日、忠司は惜しまれながら亡くなりました。68歳でした。

忠司の弟・修三郎もまた医学博士であり、高田市本町3丁目に小児科内科の長澤医院を開業しています。孝太郎・忠司・修三郎の富永家の三兄弟は、それぞれの立場から、地域医療の発展に貢献したのでした。